

中東ペトロテック2012（バーレーン）展示会に出展



展示会開会式

平成 24 年 5 月 20 日から 23 日の 4 日間、第 8 回ペトロテック（The 8th Middle East Refining and Petrochemicals Conference & Exhibition 2012）がバーレーンの国際展示会場において開催されました。

1. 概要

ペトロテックは、石油精製と石油化学における技術の発展と交流を目的として、2 年に一度バーレーンで開催される大規模な国際会議です。中東諸国の国営石油会社・石油化学会社（Saudi Aramco, BAPCO, ADNOC, QP, KPC 等）

および欧米系の石油・石油化学会社等（エクソンモービル、ダウケミカル、フォスターウイラー等）が組織委員会やスポンサーとなっています。今回は、“Creating Value: Technology, Investment & People” のテーマで開催されました。会議には 4 名の基調講演、11 名の来賓講演と多数のプレゼンテーションが行われ、展示会には 80 社以上が出展しました。JCCP はこのペトロテックに 5 回目のブースを出展しました。JCCP からは、研修部の久保田上席参事、総務部の反田参与と企画広報の北原が参加しました。



JCCP のブース



サウジアラムコのアル・ゴソン取締役役人事部長（中央）



JCCP 卒業生 (Saudi Aramco)

2. 経緯と目的

JCCP は、過去 4 回にわたりブース形式で出展参加し、中東産油国の石油関係者に JCCP の事業を紹介してきました。今回は、JCCP 事業紹介に加え、過去 30 年間にわたる産油国協力の実績を紹介すること、この機会を利用して、多くの卒業生や JCCP 事業に関わりのある要人に再会し、様々な情報収集することを目的としました。

3. 展示会

今回のブースデザインとコンセプトは、昨年 12 月の世界石油会議（The 20 th WPC）に出展したブースが成功を収めたこともあり、それをベースに改善を加えました。

前は、メールで呼びかけた卒業生がブースを訪ねてくださったとしても、ゆっくりと話をするスペースがなかったため、今回は、ミーティングスペースを設けました。

今回で 5 回目の出展だったため、JCCP が毎回出展していることを知っている方も多く、バーレーンやサウジアラビア、また隣国の卒業生の多くが JCCP ブースを訪れてくださいました。

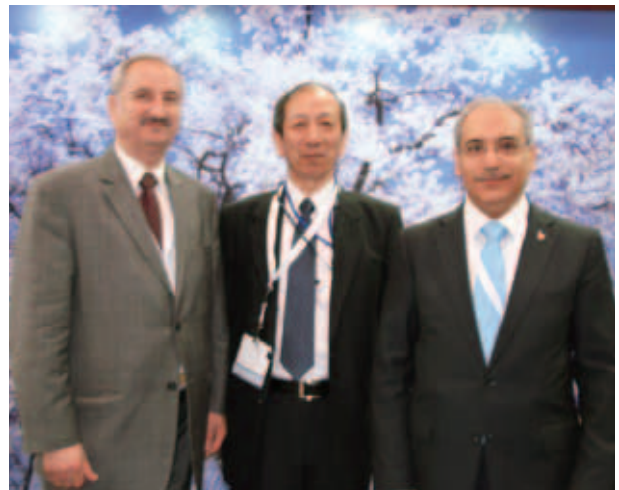
卒業生に向けて事前に E メールで案内を出しましたが、メールの効果以上に毎回出展していることが卒業生に認識され、JCCP の出展が定着してきていることを実感しました。

来訪者は、JCCP 研修窓口関係者、卒業生、翌週から JCCP 研修に参加する予定の方、技術協力部が開催したワークショップに出席した大学の先生など、JCCP 事業全般に関わりのある多くの方々でした。

JCCP 国際シンポジウムに講演者として迎えたクウェート国営石油精製会社のバキート アル・ラシディ副社長（Mr. Bakheet Al Rashidi, Deputy Managing Director, KNPC）は、今回の会議と展示会の執行委員をなさっていました。また、サウジアラムコのフーダ アル・ゴソン取締役役人事部長（Ms. Huda Al-Ghosen, Executive Director, Employee Relations & Training, Saudi Aramco）やクウェート国営石油会社のサルマ アル・ハジャジ リーダシップ開発センター 所 長（Ms. Salma Al Hajjaj, Manager, Leadership Development, KPC）は、今会議のゲストスピーカーとして参加なさっていましたので、会場で再会することができました。



KPC のアル・ハジャジ リーダシップ開発センター所長



バーレーン国家石油・ガス庁アル・シラウィ局長（右）

4. 基調講演

会議では、“Creating Value: Technology, Investment and People”をテーマにサウジアラムコのアル・ジュダイミ副社長（Mr. Abdulaziz M. Al-Judaimi, Vice President, Chemicals, Saudi Aramco）による議長の元、4名の基調講演が行われました。

- (1) バーレーンのミルザエネルギー大臣（H.E. Dr. Abdul Hussain bin Ali Mirza, Minister of Energy）は、「中東は世界において主要産油国でもあり、その役割に加え、急成長の需要国にもなっている。そのため、産油国も石油に頼るのではなく、非石油エネルギーの導入が必要である」という考えを述べられました。
- (2) サウジアラビアのサビックのアル・マディ CEO（Mr. Mohamed H. Al-Mady, CEO, SABIC）は、「人材育成においては、タレント人材の育成が重要課題であり、計画的に育成するプログラムを作らなければならない。ビジネスにおいては、マーケットに製品を卸すという考え方ではなく、“お客様”に製品を買ってもらうという姿勢が必要である。また、技術においては、米国で開発されているシェールガスが、サウジのガス価格に匹敵するレベルに下がっている。これが産油国の石油化学会社の大きな脅威となっており、今後はエタン一本ではなく、多様な原料を使いこなして石油化学を展開していかなければならないと考えている」と述べられました。
- (3) クウェート国営石油のアル・ザンキ CEO（Mr. Farouk AL-Zanki, CEO, KPC）は、Kuwait Refinery Vision 2030を策定し、3つの製油所の統合運用、重質原油の国内消費率の向上、人材の育成を大きな課題として挙げていました。「今後は、イージーオイル（easy oil）は輸出に振り向け、輸出に向かない重質油は国内で処理して製品にすることが求められる。そのためには、重質油を処理する技術を持つ人を育てなければならない」と述べられました。
- (4) アメリカのコッドリントン博士（Dr. Graeme Codrington, Futurist, Author, Keynote Presenter and Expert on the New World of Work Tomorrow Today）の講演では、「急速な技術の進歩により、明日の問題を昨日の技術で解決しようとするのではなく、問題に立ち向かうつもりでいかないと、競争力を失う」との強い警告を発していました。

これらの講演を通して、“Culture Innovation”、“Integrate Wisdom”、“Developing Creative Culture”等の言葉が繰り返されており、国営企業であっても価値の追求が求められており、そのために技術の向上に伴い人材育成も重要な課題であることが強く感じられました。

5. まとめ

JCCPは、この展示会において10年に渡り5回目の参加を果たしてきました。18㎡という小さいブースですが、回数を重ねることにより、JCCP事業をより多くの方々に紹介できたと思います。また、この展示会を通して、卒業生に再会し更に交流を深め、JCCPの最も大切な財産である卒業生名簿の更新に努めることができました。

今回のテーマにあるように、産油国においても技術と人材育成の強化が大きな課題として意識されるようになりました。JCCPの事業は、創立以来30年間にわたり、技術協力と人の育成を通じて、石油の安定供給と産油国への協力を目的に進めてきました。それが、現在、産油国のニーズと一致するようになってきたことを今回のペトロテックで実感できました。

（総務部企画広報 北原 ますみ）



JCCP 卒業生 (BAPCO)